

## 共感しながら物語を読み、考えを伝え合おう ～ たずねびと～

指導者 細川 由美  
学 年 第5学年1組13名  
日 時 令和2年9月17日(木) 4校時

### 1 単元について

【育成を目指す資質・能力】 基礎的な知識・技能，活用する力，表現する力（★対話する力），振り返る力，考えをもつ力

【研究主題】 言葉の力を高める言語活動の在り方  
～質の高い対話を通して～



#### 【単元観】

本単元は，学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「C読むこと(1)カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。」に重点を置いた。また，意見や感想をもつために必要な「C読むこと(1)エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。」の力を付けることが期待できる単元である。

本教材は，児童と同年の「綾」が，駅に掲示されたポスターをきっかけに広島を訪れ，そこでのさまざまな出会いによって，戦争や平和に対する思いを変化させていく物語である。「綾」と自分を重ね，「ヒロシマ」に起こった悲劇と向き合いながら，共感的に物語を読み進めることができる教材である。

言語活動として，「共感しながら物語を読み，考えを伝え合う」ことを位置付けた。第一次では，物語を共感的に読むことや自分の考えを交流することへの見通しをもたせる。第二次では，「たずねびと」を読み，主人公に共感できる場面について，理由を挙げて友達と交流する。主人公に共感し，自分の考えをまとめるためには，心情を表す言葉や場面設定に着目して，人物像や物語の全体像を想像しながら読むことが必要となる。また，対話を通して，互いの意見や感想についてその違いやよさに気付き，自分の考えを広げることができる。第三次では，第二次の学習を生かし，自分が選んだ物語についての考えを伝え合う活動を行う。



#### 【児童観】

本学級の児童は，国語科「なまえつけてよ」の学習で，会話や行動の叙述から登場人物同士の関わりを捉え，感想を伝え合った。心情が表れている言葉を手がかりに，二人の登場人物の関係を図に表し，関係の変化を捉えることができた。考えを伝えることはできるが，それによって互いの考えの違いやよさに気付く段階には至っていない児童もいる。

また，国語科「作家で広げるわたしたちの読書」の学習で，作家に着目して読書をし，読んだ本を紹介する活動を行った。多くの児童が，同じ作家の作品の共通点や魅力をカードに書いて紹介することができた。一方で，作品の全体像を想像し，それぞれの作品のよさや共通点などを見付けることに課題のある児童もいる。



#### 【指導観】

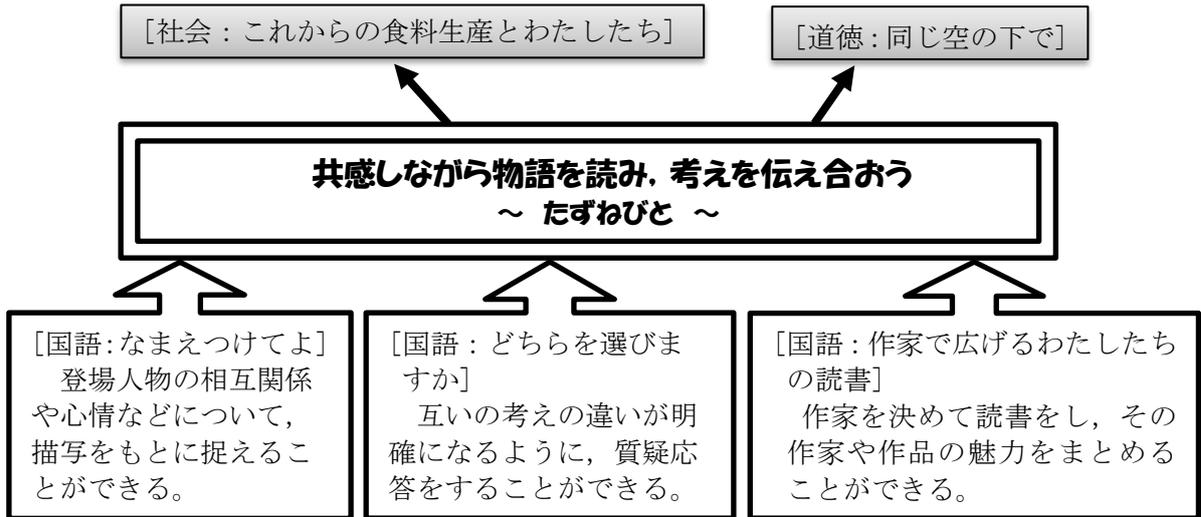
導入では，教師が言語活動のモデルを示し，児童に見通しをもたせる。

対話場面では，児童が自分の考えを伝えたい，友達の考えを聞きたいと思えるような必然性のある対話にするために，「最も主人公に共感できる場面はどこか。それはなぜか。」という発問を投げかける。叙述を根拠に共感できる場面を探すことで，人物同士や出来事との関わりに気付いたり，場面と場面を関連付けたりして物語の全体像を読み取ることができるだろう。また，対話によって，互いの考えの違いやよさに気付き，自分の考えを広げることにつなげていく。

さらに，自分が選んだ物語についての考えを伝え合うことで，本単元の学習を普段の読書活動へつなげていきたい。



## 2 本単元に関連する教科等



## 3 単元の目標

### 【知識・技能】

○読書が、自分の考えを広げること気付くことができる。〔(3) オ〕

### 【思考力・判断力・表現力等】

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。〔C読むこと カ〕

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

〔C読むこと エ〕

### 【学びに向かう力・人間性等】

○物語に対する思いや考えを伝え合おうとする。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付いている。〔(3) オ〕	①考えたことを伝え合い、互いの考えの違いやよさに気づき、自分の考えを広げることができる。〔C カ〕 ②心情を表す言葉に着目して、人物像や心情の変化を想像したり、人物同士の関係や出来事との関係など、物語の全体像を捉えたりしている。〔C エ〕	主人公に共感しながら物語を読んだり、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしたりしている。

## 5 単元の学習計画と評価計画（全6時間）

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準【観点】 (評価方法)
一	1	○扉のページを読み、題名やリード文からどんな物語かを想像する。 ○主人公に共感しながら物語を読み、考えを伝え合うという学習課題を確認する。	○学習の見通しをもたせるために、教師が本単元で行う言語活動のモデルを示す。 ○第三次で扱う物語を紹介する。	

二	2	○「たずねびと」の全文を読み、物語の大体をつかむ。	○物語の全体像について共通理解を図るために、ワークシートを活用して登場人物の言動や場面設定に着目させる。	○登場人物の言動や場面設定などに着目して「たずねびと」を読み、物語の全体像を捉えている。【思・判・表②】(行動観察・ワークシート)
	3	○主人公「綾」に共感できる場面を見付ける。	○全体で一場面の「綾」の心情について話し合い、個人の学習の手がかりとさせる。 ○「綾」に最も共感できる場面を選び、全文シート(掲示用)に名前を記入しておくことで、次時の対話相手を決める手がかりとさせる。	○心情を表す言葉に着目して読んだり、人物同士の関係や出来事との関係などを捉えたりして、「綾」に共感できる場面を見つけている。【思・判・表②】(行動観察・全文シート・付箋)
	4	○最も主人公に共感できる場面とその理由を伝え合う。	○主体的な対話となるように、2回目以降は自由に相手を選んで対話させる。	○考えたことを伝え合い、互いの考えの違いやよさに気づき、自分の考えを広げることができる。【思・判・表①】(発言・ワークシート)
三	5	○自分が選んだ物語についての考えを伝え合う準備をする。	○第二次と同じ学習過程で、物語の全体像を捉え、主人公に共感できる場面を選び、付箋でその理由を貼らせておく。	○自分が選んだ物語について、共感できる場面を見つれたり、物語に対する考えを書いたりしている。【思・判・表②】(付箋・ワークシート)
	6	○自分が選んだ物語についての考えを伝え合う。 ○単元の学習をふり返る。	○同じ物語を選んだ相手と対話を行わせ、様々な考え方やそのよさに気付けるようにする。 ○学級全体で単元の学習をふり返り、今後の読書活動に生かせるようにする。	○主人公に共感しながら物語を読んだり、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしたりしている。【主体的】(発言・行動観察) ○読書が、自分の考えを広げることに関与している。【知識・技能】(ふり返りカード)

## 6 本時の展開

### (1) 本時の目標

- 考えたことを伝え合い、互いの考えの違いやよさに気づき、自分の考えを広げることができる。【思・判・表①】

(2) 本時の学習展開

学習活動と主な発問 (○)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「綾」に最も共感できる場面とその理由を伝え合うことができる。</p> </div>	<p>○前時に選んだ場面を全文シート（掲示用）で確認する。</p>	
<p>2 主人公に最も共感できる場面とその理由を伝え合う。 ○「綾」に最も共感できる場面はどこですか。それはなぜですか。まず、各グループで伝え合ひましょう。</p>	<p>○主体的な対話となるように、2回目以降は自由に相手を選んで対話させる。 ○自分の考えをまとめるために、友達との対話を通して感じたことや考えたことを、全文シートに書き込んだり付箋に書いて貼ったりさせる。</p>	
<p>3 主人公に最も共感できた場面とその理由を書く。 ○友達と対話をした結果、最終的に、あなたが「綾」に共感できる場面はどこですか。理由も書きましよう。</p>	<p>○前回選んだ場面・理由と比較できるようにワークシートを工夫し、考えの深まりが分かるようにする。</p>	<p>○「綾」に最も共感できる場面とその理由を伝え合ひ、互いの考えの違いやよさに気付き、自分の考えを広げることができる。【思・判・表①】（発言・ワークシート）</p>
<p>4 選んだ場面とその理由を交流する。</p>	<p>○誰とどのような対話をしたことで、自分の考えが広がったのかを発表させる。</p>	
<p>5 本時のふり返りをする。</p>	<p>○次時は、自分の選んだ物語で主人公に共感できる場面を見つけることを伝え、見通しをもたせる。</p>	

7 板書計画

<p>全文シート (掲示用)</p>	<p>「綾」に最も共感できる場面とその理由を伝え合うことができる。</p>	<p>めあて</p> <p>共感しながら物語を読み、考えを伝え合おう くたずねびとく</p>
------------------------	---------------------------------------	--